武相新聞

発行所
町田タイムズ社
郵便番号　194-0005
東京都町田市南町田4-24-20
編集発行人　山根栄子
電話　042(799)1100(代)
〈振替口座〉
00150-3-103219　武相新聞

— 緑豊かな英国調 —
ご宿泊・ご婚礼
ご宴会・出張料理
ボウリング
割烹千寿・点心燗漫

ホテルラポール千寿閣
JR町田駅南口前〈P150台〉
TEL. 042(749)1121
http://www.hotel-rs.co.jp

本紙ご購読は本社か
下記読売新聞専売所へ

〈町田地区〉
町田南部　(788)0225
町田成瀬　(721)5041
町田東部　(722)7746
町田西部　(722)3744
町田木曽　(722)3877
玉川学園　(728)6675
町田山崎　(723)6523
町田藤の台　(736)1500
町田緑山　044(988)9855
鶴川　(735)2038
町田北部　(793)2184
町田相原　(700)4450
多摩境　(798)1743

〈相模原地区〉
相模大野　(742)5655
大野中央　(748)0234
東林間　(743)1043
古淵　(752)0778
渕野辺中央　(752)2213
渕野辺南部　(758)9505
橋本西部　(774)2211

ミニSLで歴史学ぶ

相原にぎわい創生プロジェクト　郷土愛醸成につなげる

町田

子どもたちを乗せてミニSLが校庭を疾走

町田市相原地区の活性化を目指す「相原にぎわい創生プロジェクト」（土田恭義代表）と相原地区連合町内会（井上正行会長）はこのほど、SL（蒸気機関車）を通して地域の歴史を学ぶ授業「相原のちょっと昔の話」を市立小中一貫ゆくのき学園（相原町）で開催した。同学園大戸小学校の3年生約20人に、SLが地域発展に貢献していたことを説明するとともに、かつて市内を走り「シゴハチ」の愛称で親しまれていた国鉄C58形のミニSL乗車体験を行った。ミニSLは昨年、同プロジェクトが「どこまでも続く線路のように地域の歴史が語り継がれ、住むまちへの誇りや郷土愛醸成にもつなげたい」などとして修復した車両で、子どもたちに地域の未来を託すべく走りだした。

乗車体験会も実施

同プロジェクトは2016年、相原地区の豊かな自然を生かして地域住民同士や相原を訪れる人たちとのふれあいの機会を創出し、まちのにぎわいを活性化させようと有志で結成した。

さまざまなイベントを手掛ける中、シゴハチのミニSLが市内に眠っていることを知り、地域の歴史を伝える機会や観光PRにもつなげようと、市から譲り受けた。動力は電動化、機関車の走行音も出るようにするなどの工夫を施し、昨夏に同学園で試運転、昨年末にあいはら幼稚園で完成披露乗車会を開催した。

シゴハチは、横浜鉄道（現JR横浜線）の東神奈川―八王子駅間で活躍した車両。相原駅は、1908（明治41）年に開業した9駅の中でも他を圧倒する貨物量を誇る物流の中心地だった。今回の授業は、その歴史的事実を子どもたちに知ってもらうと同時に、学校も地域との連携や子どもたちが地域の歴史を学ぶことで自分たちが暮らす地域への愛着につながるとして実現した。

相原の歴史を伝える守屋さん

授業は、地域ボランティアとしても活躍する守屋松則さんが担当した。SLが煙を噴き上げながら駆け抜けていく勇猛な姿は相原地区の原風景の一つで地域の誇りでもあったーとして多数の写真を紹介。燃料に使われた石炭の実物も披露し、木炭などほかのエネルギーとの違いを解説した。

また「まきを取るため山のそばを中心に町が形成されたが、ストーブやエアコンなどの台頭でまきが不要になってくると、人の増加に合わせて山や森、畑などが住宅地へと変貌、貴重な自然が減った一因にもなっている」と説明し、自然保護の大切さも説いた。

講義後は、お待ちかねの乗車体験。同学園武蔵岡中学校の校庭に場所を移すと、同地区で保管している旧相原駅舎のミニチュアが用意され、2003年の新駅舎完成後に生まれた児童たちは、その変わりぶりや、開業当時の踏切が手動式だったことに驚いた。

相原から歴史体験の旅へ「ゆくのき学園」行き硬券

乗車会には、同プロジェクトのイベント開催にも協力している相原地区を中心に地域を盛り上げる活動に汗を流す学生団体「へりぽーと」（橋本空代表。法政大学と神奈川大学の計7人）が応援に駆け付けた。知人の桜美林大学生が手作りした当時の切符「硬券」には「相原から歴史体験の旅へ～ゆくのき学園ゆき」と書き込まれ、手にした児童たちは「初めて見た。どうやって使うの」と興味津々。

ミニSLは1周約120メートルを2周、途中には同プロジェクトのメンバーが手作りした本格的な踏切もあるなど臨場感も満点で、児童たちは「SLすごく楽しい」とはしゃいでいた。

土田代表は「ミニSLを通し、地域や学校、学生らといっしょに『まちおこし』をできた。子どもたちが大人になり『地元でこんなことがあったな』と、わが町を誇りに思える仕掛けを地域連携してできたことは大きな財産になる」と述べた。

ミニSLの保管場所を提供しているゆくのき学園の櫻井幹也校長は「3年生は地域の歴史を学ぶ授業があるので、うってつけの機会になった。地域の歴史を知り、伝えていくことで、人や自然を大切にする心も育める」と太鼓判を押した。

ヘリポートの橋本代表は「コロナ禍でもマスク着用や密にならないようにすれば、工夫次第で楽しいことができるという良い見本。子どもたちが相原に愛着を持ち、地域との関わりを大切にする大人になってくれたら最高ですね」と期待に胸を膨らませていた。

◇町
【部
長兼企
策課主
（文化
ンピッ
等国際
経営部
調整担
政策経
保健部
ナ対策
振興部
部長）
広報担
広報課
部長兼
長（総
務部次
経営部
博之▽
部長）
長（政
長）水
ツ振興
長）篠
長（生
也▽い
いき生
長）佐
部長
貴史▽
部長）
長（下
▽下水
長）荻
（政
長）若
長兼薬
事務部
教育部
長（生
学習支
（総
部長）
管理室